

スイカ

1 畑の準備

土作り

植え付けの2週間前までに苦土石灰、堆肥をまき深く耕します。(30cm位)

土作り
・苦土石灰: 1㎡あたり100g
・JAファーム有機堆肥: 1㎡あたり2~3kg

元肥・うね立て

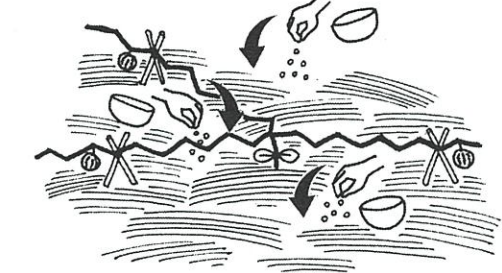
植え付けの1週間前までに元肥をまき、うね立てを行います。元肥を入れ過ぎると着果が悪くなるので、量は控えめにまきます。

元肥

・JAファームやさいの元肥: 1㎡あたり70~80g(ひと握り約40~50g)

5 追肥

果実がこぶし大になった頃、所々に「JAファームやさいの追肥」ひと握り(約40~50g)をまきます。



追肥の判断



つるの先端が首をもち上げる状態は、つるほけ。
→ **追肥しない**
うぶ毛が白くはっきり見える。早朝の朝を見て、畑全体が白っぽく見える。
→ **追肥しない**

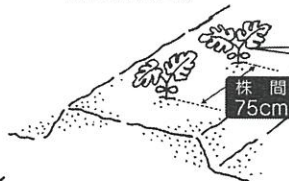
2 植え付け

スイカは連作を嫌うので、連作を避けるか、接木苗を利用します。

※接木苗: 土壌伝染病の被害を 방지、良品のスイカが収穫できる。

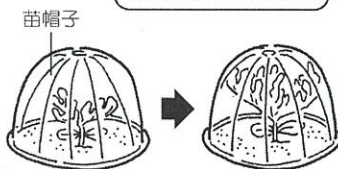
植え付け

温暖な日を選んで、畑に植えます。

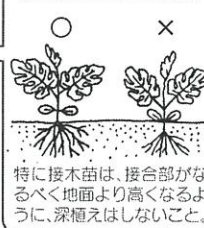


保温対策

苗帽子をかけ、霜よけを行う。被覆は、苗が苗帽子の高さに伸びるまでかけておきます。



接木苗の植え方

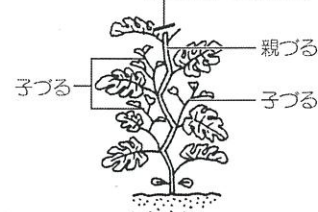


特に接木苗は、接合部がなるべく地面より高くなるように、深植えはしないこと。

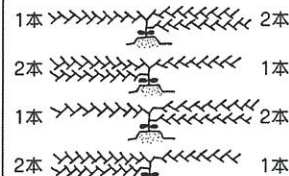
3 整枝(芽止め)

親づるは、本葉5~6枚で摘芯し、勢いのよい子づる3本を伸ばします。着果は、子づるに行うのが望ましい。

摘芯(親づる芽止め)



子づるの配置の仕方

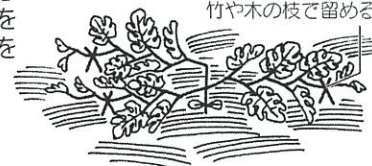


子づるを左右交互に分かれるよう配置すると、込み合いが少ない。

4 敷わら

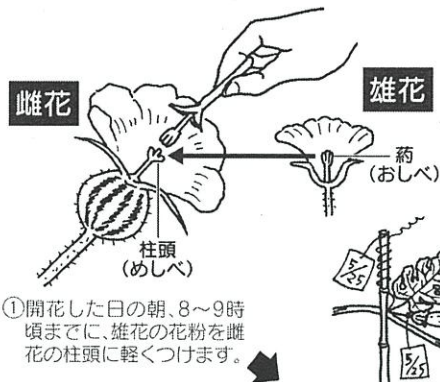
子づるが伸びはじめたら2、3回に分けてわらを敷き、乾燥や泥はねを防ぎます。

つるは風で動かないよう、竹や木の枝で留める。



6 人工授粉

子づる20節前後に開花した雌花に、人工交配を行い確実に着果させます。雌花の開花日(授粉日)には、日付を付けておきましょう。



①開花した日の朝、8~9時頃までに、雄花の花粉を雌花の柱頭に軽くつけます。

②開花日(授粉日)を書いたラベルをつける。竹棒の先にもつけておけば見やすい。

7 玉直し

果実は1株に3~6個(つる1本当り1~2玉)つけるようにします。果実が肥大しきった頃に、底の部分を裏返すように果実を置きかえ、着色ムラをなくします。



8 収穫

大玉種40~50日位
開花後 小玉種30~40日位
で収穫ができます。

●収穫の見分けポイント



- ① 巻きひげが枯れる。
- ② 網がはっきりしてくる。

たたいて判断

特に食べ頃のスイカは、手のひらでたたいてみると、濁音(なまめ)がする。



科名	ウリ科
原産地	南アフリカ
連作障害	あり(4~5年)

制作
JAファーム 専門部会
(無断転載禁止)